



紹介者

**太田 寛**

シグマクシス・ホールディングス  
取締役社長

**石田 裕樹**

YCPホールディングス  
取締役兼グループCEO



## F1とサステナビリティ

弊社はアジア18都市でサービスを提供するコンサルティング企業として、本社をシンガポールに設置しております。本稿を執筆している9月下旬、シンガポールでは、国際イベントの開催が相次ぎました。世界唯一の市街地ナイトレース「F1 シンガポールGP」を目玉に、その前週には気候変動が主題の「ミルケン・アジア・サミット」とクリプト関連イベント「TOKEN2049」、翌週にはPE・VCファンドの運用者・出資者による「スーパーリターン・アジア」や主に米中の地政学的動向を議論する「アジア・ニュービジョン・フォーラム」等々。わずか2週間で10万人を超える訪問者が世界中から集いました。

各イベントに出席する中で、今年は全てのカンファレンスにおいてサステナビリティが議題となる機会が圧倒的に増えたことが印象的でした。背景にあるのは日本に続いて2050年までのネットゼロ実現を掲げたシンガポール政府の、カーボンニュートラルに向けた国際的議論を主導したいという意志なのでしょう。華やかなF1で世界の注目を集めつつ、実直にサステナビリティの議論を前進させる、シンガポール政府のしたたかな戦略を感じました。

さて、巨大な環境負荷で知られるF1も、2030年までのネットゼロを掲げて、カーボンニュートラル燃料の導入や電動化比率の大幅引き上げなどの取り組みを進めています。その中で、日本の技術があらためて注目され、特にOEMから部品や燃料といった領域で日本企業の参入や技術供与が増えていると聞いております。

F1に限らず、ネットゼロを目指すアジア各国の取り組みが進むほど、日本企業との連携ニーズは一段と高まることでしょう。サステナビリティという世界的課題の解決が、日本経済の発展に寄与していく。F1の熱狂とともに、そんな期待を抱いたシンガポールの9月でした。

▶▶ 次回リレートーク

**上野山 勝也**

PKSHA Technology  
代表取締役